

平成27年度学校評価報告書(自己評価)

本年度の重点目標

- 〔重点目標1〕 信頼される学校づくりの推進
- 〔重点目標2〕 小規模校・少人数学級のメリットを生かした、知識・技能の取得と、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した学習指導の推進
- 〔重点目標3〕 健康で安全な活力ある生活を送るための基礎を培う健康教育の推進

※評価 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点 目標 1	1. 学校経営について			
	①学校経営状況を広く広報する	<p>【(1)学校通信・ホームページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上のペースで学校通信「北っ子だより」を発行した。 ・行事報告だけでなく、学力テストや学校自己評価、学校教育評価(保護者)等の集計結果、スマホの取扱い等、具体的な対策を伝えることができた。 <p>【(2)地域・PTA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会・PTA役員会等で定期的に学校の状況を報告した。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校通信については、「他学年の様子もわかるので良い」等の声が保護者や地域から上がっており、評価は高かった。 ・まちづくり協議会や思永中校区地域推進協議会などで学校の現況を知ってもらうことができた。 <p>【改善方策・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も現在の取組を継続していくよう新校長に引き継いでいく。
	②創意工夫のある教育課程の編成	<p>【(1)保幼小・小中連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2. -①、②、③に記載 <p>【(2)指導方法の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1. -⑤に記載 <p>【(3)学校行事の精選・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の範囲内で行事内容を検討するよう方針を示し実践した。 ・PDCAサイクルを改め、研修・行事等の都度、評価と改善策の検討・企画の見直しをタイムリーに行う『DCAPサイクル』を1年間実践した。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)2. -①、②、③に記載 (2)1. -⑤に記載 (3)・学習発表会や連合音楽会などは過度・華美にならないよう、通常授業の延長線で指導するようにし、適切な教育課程の編成に努めることができた。 ・まずは実践し、その後研究協議会や反省会で出された改善策をその都度盛り込むことで業務の効率化が図れることが確認できた。 <p>【改善方策・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)2. -①、②、③に記載 (2)1. -⑤に記載 (3)次年度もDCAPサイクル活用の定着を継続していくよう、新校長に引き継ぐ。

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1 (つづき)	③生徒指導体制の充実 (いじめ・不登校等)	【いじめに関するアンケート調査】 ・8月のいじめ防止サミットに向け、一学期より各学級や委員会活動でいじめをなくすための取組について検討し、サミットへ代表児童3名が参加した。 ・10月に「いじめに関するアンケート調査」を全校一斉に実施した。 【教育相談の充実】 ・いじめに関する保護者の訴えが1件あったが、担任・教務主任が相談窓口となり関係者へのヒアリング、保護者への報告、改善への具体的な対策を実施した。 【不登校対策】 ・今年度不登校となった児童が1名いたが、保護者や教育委員会との連携を図り、無事元気に登校するようになった。	A	【成果】 ・今年度は、児童の自主的ないじめ防止への取組ができた。 ・全校一斉アンケートの実施とその後の担任面談や個別指導の結果、話し合いで解決し、早期発見・早期対応ができた。 【改善方策・課題】 ・いじめに関しては、認知件数0であったが、引き続き対人スキルアッププログラムの実践等を通じて、全教職員による指導の徹底と、児童が相談しやすい環境づくりを行っていく必要がある。 ・次年度も児童の自主的ないじめ等の対策(学級活動・委員会活動)を進めていくよう新校長に引き継ぐ。
	④特別支援教育の推進	【児童のニーズに応える教育の推進】 ・巡回相談を4回実施(1年2回・3年1回・6年1回)。 ・SCによる保護者の心のケアを通じ、子育て相談を実施した。 ・特別支援センター教育相談2名、就学相談1名実施。 ・就学時検診・入学説明会で小倉北特別支援学校と連携を図り、新1年生の状況の把握とデータの蓄積を行った。	A	【成果】 ・就学相談1件、教育相談に3件つなげることができ、具体的な支援内容の検討に着手できた。うち、1名は次年度から特別支援学級(知的)に転校することとなった。 【改善方策・課題】 ・巡回相談の着手が遅れた。 ・次年度は4月の受付開始より、即着手するよう新校長に引き継ぐ。 ・個々の児童に対する日常的な手立てや、関係機関と連携した今後の支援方法を機を逃さないように取り組んでいくよう新校長に引き継ぐ。 ・今年度教育相談を受けた児童については、引き続き相談を受診するよう保護者に声掛けを行っていくよう新校長に引き継ぐ。
	⑤校内外研修の充実	【主題研究(算数科)】 ・本校の主題である算数科については、全学級担任による校内授業研究及び協議会の開催を実施し、研究紀要及び研究論文をまとめることができた。 ・主題研究の成果を日常の授業で他教科でも活かすよう努めた。 【校内研修】 ・特別支援教育、SCによる対人スキルアップ研修、情報研修(教材研究)、救命救急講習会、等を実施した。 【校外研修】 ・教科毎の主任研修会に全教員が参加した。 ・各種研究大会へ都度参加した。	B	【成果】 ・研究論文団体部門を1件申請した。 ・主題研究の成果を「研究紀要」にまとめることができ、教員の資質向上に向けた成果の取りまとめを行った。 ・SCによる対人スキルアップ研修は、日常で即実践できるものがあり、多くの学級で取り組むことができた。 【改善方策・課題】 ・次年度は新たに主題を設定し、さらなる教員の指導力向上につなげていくよう新校長に引き継ぐ。 ・SCによる対人スキルアップ研修は、次年度以降も継続していくよう新校長に引き継ぐ。 ・低学年においては、学習規律定着のための学校全体としての共通ルールの作成と定着を行っていくよう新校長に引き継ぐ。 ・中一ギャップ解消に向けて中高学年(3～6年生)を対象に、それぞれの発達段階に応じ「視写速度の向上」の取組を進めていくよう新校長に引き継ぐ。

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1 (つづき)	2. 発達段階に応じた教育の推進			
	①保幼小連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・光沢寺第二保育園と緊密に連携を図り、相互交流を行った。 ・小1プロブレムの解消に向け、新1年生が在園する幼稚園・保育園と児童個別の情報交換を行った。 ・保育士体験を実施(5年) ・保育園児への平日校庭開放、小学校児童とのふれあいタイムを実施。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士体験をした児童(5年生)にとっては「命の大切さ」など学ぶ場になった。 ・教員にとっては保育方針を見聞することで、指導のあり方への新たな知見を得る良い機会になり、園児の小学校へのスムーズな移行の参考となった。 <p>【改善方策・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同様の活動を継続していくよう新校長に引き継ぐ。
	②小中一貫・連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に思永中学校区の小中合同で年間計画を立案し、小中連携の取組を開始。 ・小中一貫連携教育推進委員会の定期開催 ・中学生(OB)による朝のあいさつ運動実施 ・小中連携サポーターによる算数科T2の実施 ・中学校体育大会(リレー競技)への参加 ・中学校により陸上競技・バスケットボール指導実施 ・小中教員合同の研修会実施 ・小中学校相互の授業参観実施 	C	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に4校合同人権教育を主管し、「新版いのち」の制作責任者であった横代小学校長 石川浩士先生を講師に招き、教材理解を図ることができた。 <p>【改善方策・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比ベトーンが落ちてしまった。 ・次年度はサポーターの役割・配置方法が変更になるとのことなので、一から連携方法を見直すよう新校長に引き継ぐ。
	③小小連携計画の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ・3小合同で5年生のバスケットボール大会を学級単位で開催した。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりバスケットボール大会を学級単位で会場をわけることができたため、学級づくりや小小連携に効果が見られた。 <p>【改善方策・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同様の方法で活動を継続していくよう新校長に引き継ぐ。
重点目標2	3. 『知』: 確かな学力の向上			
	①少人数指導等きめ細かな指導を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数加配講師と業務の効率的な役割分担を行い、習熟度別授業の実践、放課後補講「北っ子タイム」、「朝の10分間読書」を充実させた。 ・2年生から5年生においてはCRT検査を4月と1月の2回実施し、その効果の検証を行った。 ・1月のCRT検査に向け、冬休みの宿題作りを少人数加配講師と役割分担し、準備・実施することができた。 	C	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「朝の10分間読書」を全校一斉に実施することが定着した。 <p>【改善方策・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の低下が顕著な一年となった。 ・教員の異動に伴い、若年化により指導力が低下してきている。 ・次年度は授業力向上を最優先課題として取り組むよう新校長に引き継ぐ。

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標2 (つづき)	②「朝の10分間読書」を毎日確実に実践する	・全学級で毎朝8:40～8:50の時間を「朝の10分間読書」の時間として、「言葉の力」を高める活動に取り組んだ。	A	【成果】 ・黙々読書の習慣が定着した。 【改善方策・課題】 ・次年度も全校一斉実施を継続するよう新校長に引き継ぐ。
	③放課後学習「北っ子タイム」を週3回実施する	・学齢に応じ、放課後の時間を活用し、主題である算数科を中心に補講を行った。 ・その日に習ったことはその日に身に付けることを狙いとして、与えた課題が終わるまで個別指導を行った。	C	【成果】 【改善方策・課題】 ・学級によっては「北っ子タイム」を確実に実施できていなかった。 ・次年度は、確実な実施に向けて学校行事とのバランスを保ちながら、学校経営方針の柱の一つとして位置付け、教員の共通理解を図っていくよう新校長に引き継ぐ。
	④家庭との連携により家庭学習を定着させる	・「家庭学習チャレンジブック」の活用の定着化を図った。 ・PTA家庭成人学級への参画 ・長期休暇中は『学年×10分+10分』の家庭学習時間定着に向け、適切な内容(アシストシート等)かつ適度な量の宿題を与えることで家庭学習の定着の礎が築けてきた。	A	【成果】 ・教育委員会より「家庭学習マイスター 学校賞」を受賞した。 【改善方策・課題】 ・帰宅後のTV・ゲームを行う時間が全国平均に比べ著しく長い。 ・家庭の理解・協力を継続して図っていく。 ・「家庭学習マイスター賞」応募の「質と量」の拡大を図る。
	4. 『徳』:心の育ちの推進(あいさつ・ボランティア活動の推進)			
	①「あいさつ運動」の実施	・毎朝正門前で管理職による『語先後礼のあいさつ指導』を実施。 ・北小倉小OB思永中生徒に朝のあいさつ運動実施(1回/学期)	A	【成果】 ・集会委員会が中心になって毎週水曜日に朝のあいさつ運動をするようになった。 ・いじめ防止サミットで決まったツゼロの付く日にも朝のあいさつ運動を行えた。 ・学校評議委員より「いつ来ても子どもたちが気持ちよくあいさつしてくれる」と評価された。 ・先生や友達、来校者に対して「こんにちは」が言えるようになった。 【改善方策・課題】 ・次年度は、学級担任からの指導を今以上に徹底するとともに、集会委員会による朝のあいさつ運動の継続をおこなうよう新校長に引き継ぐ。

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標2 (つづき)	②ボランティア活動の推進	・地域活動である「境川清掃」や「櫛山荘清掃」に教職員・児童が参加する。	A	【成果】 ・奉仕活動に関する意欲が高まった。 ・6年生は落ち葉拾いのボランティア活動を自主的に取り組むことができた。 【改善方策・課題】 ・次年度も継続するよう新校長に引き継ぐ。
	5. 『体』: 健やかな体の育成			
	①キッズダンスの実施	・キッズダンスを全校ダンスとして位置付け、運動会やマラソンタイムを柱に取り組む	B	【成果】 ・全校一斉で行うことで体力作りとたて割り活動(いじめ予防)につなげることができた。 ・寒い日でも休み時間に校庭で元気に遊ぶ子供が多かった(定性的感覚) 【改善方策・課題】 ・外部講師の活用ができなかった。 ・年間を通じた取組を検討していくよう新校長に引き継ぐ。
	②冬季の『マラソンタイム』の実施	・毎週火曜日と木曜日の中休みに、キッズダンスと運動場トラックを周回するマラソンタイムを実施した。	B	
③長縄跳び・なわ跳びの実施	・「なわとび大会」や「なわとび週間」を設け、児童が自由に取り組めるよう指導した。	B		

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点 目標 3	6. 学校保健活動を推進			
	①保健教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・学校歯科医による『歯磨き講習会』を実施 ・歯磨き「ピカピカ教室」の実施 ・給食後歯みがきチェックシート活用による昼の歯磨きの定着を図った。 ・フッ素洗口に新たに取り組んだ。 ・「生活振り返り表」の実施(年4回) ・「心のアンケート」実施(年2回) ・ピーターバルソソ小児抑うつテスト実施(年1回) 	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・北九州市学校保健会より『優秀賞』を受賞した ・歯磨きチェックシートの活用により、昼の歯磨きを行う習慣が定着した。 ・フッ素洗口に取り組むことができた。 【改善方策・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・給食後の歯磨きチェックシートの活用を継続する。 ・夕食後または寝る前に歯を磨く習慣が定着していない。 ・う歯を放置している児童がいる。 ・家庭への情報提供の強化と協力の要請を図る(8020運動)。
	②組織的な活動とし継続定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校健康委員会を年3回開催 ・『元気ハツラツ委員会』による食育啓蒙活動 ・北小倉校区GOGO健康づくり委員会への参画。 	A	
	7. 食育・学校給食の推進			
	①親子給食の親小学校として、関係校や委託業者との連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食親小学校として思永中学校へ給食指導を実施 ・栄養職員のいない西小倉小へ給食指導を実施 	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では残食率を5%以内に抑えることができた。 ・中学校での残食率の低減につながった。 【改善方策・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続して実践できるよう新校長に引き継ぐ。
	②感謝の心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・給食週間(1/23~1/30)には、給食室の調理風景をビデオに撮影し、児童が喫食中にこれを上映した。 ・調理員さんへ感謝の手紙を書いた。 	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が調理士さん・食材を運んでくれる業者さんの苦勞を知り、感謝する心の育成できた。 【改善方策・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も活動を継続していくよう新校長に引き継ぐ。
	③牛乳パックリサイクルを推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で牛乳パックのリサイクル活動を年間通じて実施 	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル活動を100%実践でき、環境に貢献した。 【改善方策・課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も継続して実践できるよう新校長に引き継ぐ。